

---

# 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

## センターだより第222号(通巻第289号)

---

2026年3月23日 発行  
山梨大学教育学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790  
E-mail: edjissen-as@yamanashi.ac.jp  
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、変更しない限り、自由に複製、配布していただいて結構です。

\*\*\*\*\* コンテンツ一覧 \*\*\*\*\*

- 第46回教育フォーラム開催報告  
「子どものインターネット・メディア利用に対する保健教育」の新たな展開  
～子どもたちの健やかな成長に向けての取り組み～
- 第3回やまなし情報教育推進室フォーラム開催報告  
「教育の情報化の現在とこれから」
- 令和7年度「前期実習前教師力養成講座」報告
- 令和7年度「教員就職直前講座」報告
- 令和7年度 第2回不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会報告
- ICT支援学生ボランティアの研修と派遣（2025年度後期 総括）
- 科学の甲子園山梨県大会 県代表チーム支援講座（情報分野）実施報告
- 先進校授業視察報告 愛知県立旭丘高等学校「課題研究（情報β）」プログラミング
- 先進校授業視察報告 宮城教育大学附属小学校「小学校情報科」
- はじめての生成AI vol 2
- 4・5月の主な行事予定

\*\*\*\*\*

---

これまでのセンターだよりの一部は、<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/> で見るすることができます。

## 第46回教育フォーラム開催報告

教育実践総合センター

令和8年1月27日午後6時から8時まで第46回教育フォーラムが開催されました。山梨大学甲府西キャンパスJ号館A会議室及びZoomを使ったオンラインのハイフレックス方式で開催しました。



現代の子どもたちは、インターネットやメディアと密接に関わりながら生活しています。しかし、その過度な利用が心身の健康に悪影響を及ぼす可能性があることが、国内外の研究や調査から明らかになってきました。山梨大学附属の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校では、令和4年度から継続して、子どものメディア利用実態に関する調査と、それに基づく保健教育の実践を行ってきました。

今回のフォーラムでは、「子どものインターネット・メディア利用に対する保健教育」の新たな展開～子どもたちの健やかな成長に向けての取り組み～と題し、これまで各校園が取り組んできた実践事例を紹介しながら、子どもの発達段階に応じた保健教育のあり方について考えました。はじめに、若本教授から、子どもの過度なメディア利用と健康：BPSモデルによる多面的アプローチと題しご講演をいただきました。フォーラム後半では、幼稚園から就寝前のスクリーンタイムを親子のリラックスタイムに置き換える「リラ活プログラム」を実施したことで、子どもの情緒の安定や保護者の意識変容が見られた実践、中学校から生徒自身がメディアとの付き合い方を見直す「Don't沼プロジェクト」やセルフチェック活動を通じて生活習慣の改善が見られた実践をお話いただきました。今回のフォーラムでは、これらの実践から得られた知見を参加者と共有し、どのように子どもたちの健康と発達を支えていけばよいかを考えるとてもよい機会となりました。

■申込者数 対面参加：14名、オンライン参加：37名 合計51名



■講師 若本 純子氏の基調講演

子どものメディア利用の世界的な実態・研究動向に加え、子どもがメディアを過度に利用することによって生じる課題を、「脳」「心」「環境」の3つの視点から総合的に捉え、対応や指導にどう活かしていくのかを、専門的知見に基づき、実際の場面が想起できるよう詳細にご説明いただきました。

## ■附属幼稚園、附属中学校の実践発表



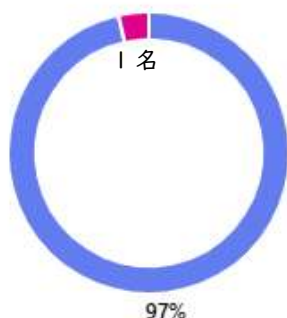
附属中:大間絵理奈先生 附属幼稚園:望月なぎ沙先生

若本先生のご講演を受け、これまで附属4校園が連携し調査研究した結果に基づいた先進的な取り組みを発表していただきました。幼稚園は保護者と連携した生活習慣改善の取り組みがとても効果的であったことが保護者の声から感じとれました。また、中学校の取り組みの報告からはメディアとの付き合い方を生徒が主体的に考え改善しようとする指導の手がかりを得ることができました。

### 【参加者へのアンケート結果】

●アンケート回答者数 29名

#### ① 今回のフォーラムの満足度について教えてください



とても満足した 28名 (97%)  
満足した 1名 (3%)

\*100%の方がとても満足した・満足したと肯定的な回答

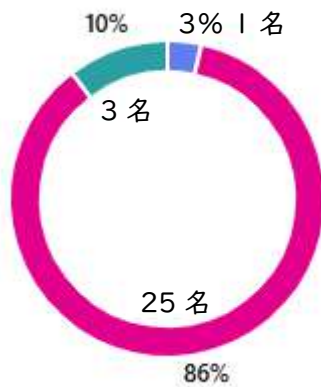
#### ② 今回のフォーラムに参加された感想を教えてください

- 現在の学校現場では、メディアの悪影響を受けているだろうと推測される児童が非常に増えていると感じています。そのような児童や保護者、さらには教育関係者に対して、今回のような講演に参加する機会をぜひ設けたいと考えていました。今回の講演の中で学んだことは、私がこれまで感じていたそして知っていた状況よりも事態は深刻だと感じました。今回学ばせていただいたことを学校現場に還流し、子どもたちに迫る危機を少しでも軽減できるよう、働きかけていきたいと思いました。
- 保健教育に関する学びとなる貴重な機会をありがとうございました。生活改善がスクリーンタイムを減らすことや子供たちの心の健康にもつながることを学び、ネットが当たり前にある現代で生きる子どもたちに合わせた指導が必要であると感じました。また、子どもたちがなぜネットに依存してしまうのか、背景まで深く考えて個に応じて支援を行っていくことの大切さを感じました。家庭と協働しながらの実践を自校に生かしていきたいです。
- 知っている、分かっているようで、理解が十分でないことを、大変分かりやすく具体や実践も含めてお話していただきました。学びが深まりました。校内でも、一人一台の端末を、不登校傾向で久しぶりに登校した児童が使いたがりますが、今日のお話で納得した部分がありました。

- 興味深い内容であったという間の2時間でした。メディアの利用と中学生の現状について、幼稚園生の現状について知ることが出来て勉強になりました。ありがとうございました。
- とてもよい内容でした。沼にはまってしまっただけでは遅いのですが、はまり始めてすぐ、はまってからの対処も知りたいと思いました。
- 喫緊の課題につながる内容でとても勉強になりました。とても分かりやすく、勉強になりました。また続きをお伺いしたいです。
- 今の児童生徒を指導していくのに、非常に大切な視点であり、学びであったと思います。データに基づいたとてもわかりやすい講演だった。大変参考になりました。
- まずは教育者が多方面から知ること。そしてそれらを伝えること。そして実践させること。さらに効果を実感させること。
- 学校も多様な教育活動を行うことも大切であると感じました。とてもよいフォーラムでした。ありがとうございました！
- ゲームやネットの使い方について保健教育をしていきたいと考えていたのでとても参考になりました。ゲームやネットをやめさせるのではなく、使ってしまう原因を一緒に考え、変わりになる物を考える、生活リズムを整えるように指導をしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 旬のテーマを扱っていただき、大変有意義な学びの時間となった。若本先生にお話しいただいたことを、全校のPTA総会などで、保護者に聞いてもらいたいと心から思った。
- 今まで、中学生が使用するSNSに対して、考え方に対して疑問がたくさんありましたが、今回の講演を聞いてスッキリした部分がたくさんありました。自校での実践の参考にもとてもなりました。
- AIとの関わりについて、関心があります。若本先生から、続きのお話をうかがいたいです。AIを大人が子どもたちの目の前に、ただ便利なものとしてポンと提示してはいけない気がしています。健康面を中心に考えた興味深い内容だった。
- 若本先生のご講演に引き込まれました。ぜひ、もっと多くの先生方、保護者の皆様に聞いていただきたいと思いました。様々なことを改めて考えさせられる時間でした。意義な機会をありがとうございました。
- あっという間の2時間でした。社会の変化に伴って子どもを取り巻く環境も激変。現状や実態を丁寧に確認しながら、対応も考えて行きたいと思います。
- 叱るという方法でない関わりで、子どもたちの健康を守っていききたいと思います。
- SNSのルールや使用時間を話題にしがちだったが、本日のお話から学校における支援の具体の説明があり、実践していこうと思いました。幼稚園のプロジェクトの実践報告もあり、小さな頃からの使用時間や使用頻度は、将来のことを考えても社会全体で考えていかなければならない課題であると感じました。大変有意義で、学びの多い時間になりました。ありがとうございました。

- 若本先生の講義は大変参考になりました。生徒と接するときには「なぜそうするしかないのか」を念頭に置きながら、しっかり話を聞こうと感じました。今日学んだことを明日からの生徒指導に役立てていきたいと思います。
- 若本先生の専門性を活かしたお話と現場の養護教諭の先生方の実践が融合した内容が参考になりました。ありがとうございました。
- 現任校でもインターネット・メディアの利用時間が長く、睡眠時間がとても短い生徒の方が多いため、学び多い時間となりました。若本先生のご講義のBPSモデルに基づく支援の気持ちへのアプローチ・脳科学のお話や実践発表から、本校での介入のヒントを得られました。
- 貴重な研究、また実践データをありがとうございました。SCをしていると彼らがいかにSNSやスマホに救われているかを実感します。それほどまでに彼らには居場所がなく、孤独なんだと思い、私にできることを日々考えています。とても参考になりました。
- ネットやメディアの利用については、なかなか成果が出ない反面、日々ますます深刻になっている実態がある。どのように取り組んだらいいのか見えない状況があったため、大変参考になった。取り組むべき新たな視点を示していただいたように思う。
- 小学校では、保護者もすでにヘビーユーザーである家庭も多く、家庭との連携についても難しい側面があるが、今日の講演や先生方の実践を参考にさせていただきながら、取り組んでみたいと思った。
- わかりやすく、楽しく、アプローチ方法を示していただき大変ありがたかった。とても良いテーマで、学びになった。この機会に感謝したい。
- 子どもたちがスマホ、タブレット、テレビ等のメディアに接する時間が非常に長くなっている現在、その危険性について、気づかない、または気づこうとしない、更には気づいていても気づかないふりをしたり諦めたりしている保護者や子ども、そしてそのような子どもに関わる大人たちに対して危機感がありました。（メディアや企業、公共団体も含めて）
- 過度なメディア利用によって起こる様々な健康被害をどの様にしてなくしていくのかを考える時、どうしても禁止や指示をしがちですが、今日のお話を伺ってその時間を子どもが心地よいと感じる経験に置き換え、それを良い習慣にしていく事で、スクリーンタイムが短くなり、健康的な生活を送ることができ今後の心身の成長に良い影響を与える事がわかりました。このような取り組みが、もっと広がっていくことを願います。
- 子ども達のSNS長時間利用がなぜ良くないのかが、理解できました。幼稚園と中学校の実践を参考にさせていただき、本校でも取り組みを考えていきたいと思います。わかりやすいお話をありがとうございました。
- 初めて参加させていただきましたがとても勉強になりました。先生の講話がとても分かりやすくもっと聞いてみたかったです。

③ 今回のフォーラムの時間設定（2時間）について教えてください



1 長かった	1名 (3%)
2 ちょうど良い	25名 (86%)
3 短かった	3名 (10%)

④ 今後のフォーラムで今後取り上げてほしいテーマを教えてください（原文ママ）

- いじめと SNS に関わる内容を取り上げていただきたい。
- 読書教育
- スマホを手放せない生徒の支援方法
- 幼小接続、学びのつながりなど
- 睡眠について
- 発達障害と不登校
- 様々な教育現場の課題を新しい視点で学んでいきたい。子ども理解につながる心理について。今日も話にあったが、叱ることの無意味さや小学校低学年で、厳しい指導がされたり、虐待等があったりした場合に、その後の心理的な課題を表すことがあるのかなど聞いてみたい。
- 学校現場の困難や危機に関する現状やその対処法・対応法について。

# 第3回やまなし情報教育推進室フォーラム 開催報告

令和8年3月9日午後5時から午後7時まで第3回やまなし情報教育推進室フォーラムが開催されました。山梨大学甲府西キャンパスJ号館A会議室及びZoomを使ったオンラインのハイフレックス方式での開催となりました。また、今回からは見逃し視聴としてのアーカイブ配信も行いました。

やまなし情報教育推進室は、山梨県をはじめとする小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の情報教育の一層の充実と振興を図るため、山梨県教育委員会と連携して令和5年10月1日に教育学部附属教育実践総合センター内に開設した推進室となります。この推進室が主催する3回目のフォーラムでした。

今回のフォーラムは、「教育の情報化の現在とこれから」と題し、小・中・高校の情報活用能力の系統性を考える内容で構成されました。我が国の教育の情報化をリードする佐藤和紀氏（信州大学・准教授）を講師に迎え、教育の情報化や生成AIの活用に関する最新動向についてご講演をいただきました。また、佐藤和紀氏は中央教育審議会初等中等教育分科会の専門委員をお務めであることから、次期学習指導要領へ向けて求められる授業改善の方向性についてもお話をいただきました。

フォーラムの後半は、情報活用能力の育成に関する小・中・高の実践発表、パネルディスカッションが行われ、校種間連携の大切さや発達段階に応じて情報活用能力を育成していくことの必要性について考える機会となりました。

## 当日のプログラム

時刻	内容
17:00～ 17:15	開会の挨拶 やまなし情報教育推進室についての紹介
17:15～ 18:00	基調講演 佐藤 和紀 氏（信州大学・准教授） 「次期学習指導要領の改訂を見据えていますべきこと、これから求められること」
18:00～ 18:25	情報活用能力の育成に関する小・中・高の実践発表 天野 友理 氏（甲州市立祝小学校・教諭） 青柳 敬大 氏（山梨大学教育学部附属中学校・教諭） 山本 一博 氏（山梨県立富士北稜高等学校・教諭）
18:25～ 19:00	パネルディスカッション「情報活用能力の系統性を考える」 佐藤 氏、天野 氏、青柳 氏、山本 氏（進行 山梨大学・三井 一希）

## ■ 申込者数 238 名

(対面参加：38名、オンライン参加：87名、アーカイブ視聴：113名)



### ■ 講師 佐藤 和紀 氏の基調講演

次期学習指導要領へ向けた最新動向、情報活用能力の重要性、1人1台端末を活用した授業改善等について、具体的にお話をいただきました。生成 AI 時代だからこそ児童生徒にはどのような力が必要となるのかについてもたいへん分かりやすくご講演をいただきました。



### ■ やまなし情報教育推進室の活動紹介

新野貴則推進室長から、やまなし情報教育推進室の活動内容について説明を行いました。推進室では、高等学校「情報」免許法認定講習の実施、教員向けオンライン研修コンテンツの開発と展開、今回のようなフォーラムや Web ページを通じた情報発信を行っていることの紹介がなされました。



### ■ 小・中・高の実践発表

情報活用能力の育成に関する小学校、中学校、高等学校の実践発表が行われました。パネリストからは児童生徒の発達段階に応じた多様な工夫をご紹介いただきました。小・中・高の実践を並べてみることで、情報活用能力を系統的に指導していくことの重要性が明らかとなりました。



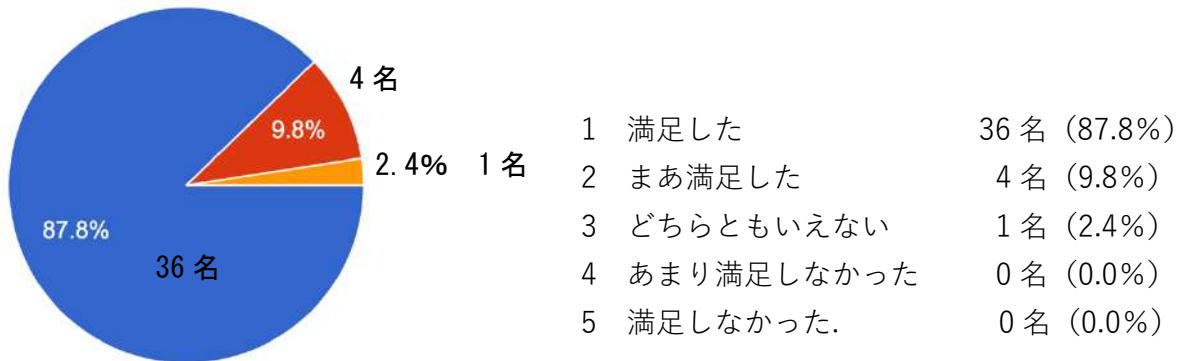
### ■ パネルディスカッション

「情報活用能力の系統性を考える」とのテーマでパネルディスカッションが行われました。参加者からいただいた質問を取り上げながら、ディスカッションを行いました。佐藤先生からは先進事例や学習理論に基づく情報もご提供いただきました。時間が不足するくらいの白熱した議論が展開されました。

## 参加者へのアンケート結果

●アンケート回答者数 41名

### ① 今回のフォーラムの満足度を教えてください



### ② ①の回答の理由を教えてください（抜粋）

- ・佐藤先生や3名の先生方から貴重なお話をお聞きすることができたから
- ・情報活用能力、次期学習指導要領について、山梨の先生方の実践事例、など縦や横のつながりの大切さを再確認できました
- ・パネルディスカッションで、パネラーのそれぞれの率直な考えが伝わってきた
- ・小中高で系統立てて情報活用能力について学びとらせ、身に付けさせて行くことの重要性を強く感じた。正直、小学校でしか勤務したことがない自分にとっては、中学校や高校でどんな学習内容や項目があるのか、どんな学習に行き着くのかを知っていく必要は重要だと感じた
- ・気になっていたAIの授業への活用について知見を得ることができた
- ・佐藤先生の講演もよかったし、3人の先生方のパネルディスカッションも良かったです。あっという間の2時間でもっと学びたいと感じたフォーラムでした
- ・佐藤和紀先生のお話を伺い、AI倫理やAIの特性理解に関する指導が急務であることに気づかされました。教科情報の授業や総合的な探究の時間内で参考文献について扱うことの重要性も学ぶことができました
- ・資料もいただけてありがたいです。系統性を考えて、自校では何が必要かを見極めて確実に実践していくことが必要だと改めて学ばせていただきました
- ・3つの校種における情報活用能力の実践を知ることができた。小学校の教員として、現在、児童に育成していることがどのように今後活かされていくのか、見通しがもてた。また、小学校での素地を作る大切さも実感した
- ・佐藤先生の講演と現場の先生のディスカッション、両方の内容がとても良かったです
- ・小中高の連携がいかに重要であるか、それぞれの学校での役割分担が認識できました
- ・案内からアーカイブ配信まで、丁寧にご対応いただきありがとうございます
- ・系統性を理解することができ、現時点で行っているものがどのような影響があるのか価値づけることができた

### ③ 今回のフォーラムに参加された感想を教えてください（抜粋）

- ・佐藤先生のお話は非常に分かりやすく、国が考えているこれからの情報活用能力の育成についてよく知ることができ、学校現場がこれからどう対応すれば良いか、多くのヒントを与えていただきました。充実した時間でした。我々人間が AI とどのように付き合っていくのか、AI とともにどのように成長していくのか、考えるきっかけとなりました。ぼーっとしてるとどんどん置いていかれて大変なことになって行くような気がしました。いずれにせよ、いろいろ考えさせられる 2 時間でした。このような機会を提供していただき大変ありがとうございました
- ・情報活用能力を育てること、それを生かして学習できるようにしていく必要があると改めて思いました。学年ごとに求められるものがありますが、できることはどんどん取り組んで行く必要があるのだと思いました
- ・全体として、メッセージ性のあるフォーラムになっていた
- ・子供たちに情報活用能力を身につけることによって子供の学びが変わったり、より豊かな学びにつながるきっかけとなることが実践から伝わりました
- ・各校種で取り組まれている内容を聞きながら佐藤先生、三井先生のお話も踏まえて、この先の目指す姿を正しく捉えて授業実践をしていくことが重要であると感じました。現在の自分が中高までを見据えて授業づくりを行うことができているのではないので、各段階で身につけていくべき力を見通して実践をしなければいけないと反省しました
- ・情報活用能力の育成のためには小学校・中学校・高等学校の系統的な指導が必須であると確信しました。次期学習指導要領に向けて、今から準備をする必要があると感じています
- ・ありがとうございました。大変満足 of いくもので、今後もぜひ、続けていただきたいです

### ④ フォーラムで今後取り上げてほしいテーマを教えてください（抜粋）

- ・教育現場への AI 導入と活用の実際
- ・読解力とデジタル学習基盤の兼ね合い
- ・メタバース空間についての詳細や活用例
- ・情報倫理
- ・各教科の実践例や全校体制で取り組む情報活用能力の育成
- ・特性をもつ子供たちへの対応

やまなし情報教育推進室では、今後もこのようなフォーラムを開催していく予定です。

最新の情報は Web ページからご確認ください。

<https://www.yamanashi.info/>

## ■令和7年度「前期実習前教師力養成講座」の報告

1 実施日 令和8年2月3日(火)Ⅲ～Ⅳ限 13:10～16:20

2 開催場所 山梨大学教育学部 (甲府西キャンパス)

①講演会場 J号館 特別会議室, ②相談会室 LC-12,13,14,15,16,17

3 次第

- (1) 開会行事 長谷川学域長 挨拶 新野センター長 講師紹介
- (2) 第1部 田中一弘先生ご講演
- (3) 第2部 渡井 渡先生ご講演
- (4) リフレクション
- (5) 閉会行事 アンケート記入依頼等
- (6) 希望者による相談会

○相談員:客員教授4名、教育実践総合センター准教授1名(臨床心理士有資格者)、  
実務家教員1名

2月3日(火)、山梨大学教師塾プログラム事業の一環として、「前期実習前教師力養成講座」を開催した。

本講座は、主に初めて実習に臨む2年次生を対象に、実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起するという目的の下、学校という職場のよさや教師としての仕事の魅力、効果的な授業づくりの方法等について、現場経験豊かな講師による講義、客員教授による相談会を中心とした前期実習準備講座として行った。今年度は、対面形式で行い、113名が受講した。

第1部は、山梨県総合教育センター相談支援センター長の田中一弘先生を講師として招聘し、「道徳科の授業とその必要性について」と題して、①「道徳の授業」の要点、②なぜ道徳が必要なのかについてご講演いただいた。田中先生が実践された具体的な例を元に、答えがひとつではない道徳的課題に対し、一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、『考える道徳』『議論する道徳』へ転換することが大切であるということについて、わかりやすくご講義いただいた。

第2部は、市川三郷町教育長の渡井渡先生を講師として招聘し、「今日の学校教育の課題～教職を目指している皆さんへのエール～」と題し、教師の専門性、教育現場の課題についての講演を拝聴した。ご自身が経験した際のエピソードも交えながら、教師の専門性では、「生徒の見取りの必要性」、現在の教育現場の課題では、「育てたい子ども像」と「求められる教師像」について、児童生徒理解に基づく専門知識や指導技術、人間性等が大切であることをわかりやすくご講義いただいた。

講演後に、客員教授の先生方にもご指導いただきながら、グループ別にリフレクションを行い、感想等を交流した。その後、希望者に対して個別の相談会を開催した。

受講後のアンケートには、多くの前向きな意見が寄せられ、充実した学びであったことがうかがえた。

#### 4 受講者数 113 名

#### 5 成果と課題

##### (1) 成果

##### 【アンケート結果から】

- 第一部・第二部とも「よかった」がほとんどであり、「まあよかった」との合計は100%という高い評価結果となった。その理由からも、本講座の目的である「実習前の不安や疑問の解消」や「前向きな意欲の喚起」に関する記述が多くあり、本講座の開催意義を再確認できる結果となった。
- リフレクションにおいては、講義内容の感想共有や意見交換を行った。講義を通じて得た知識や考え方を前向きに活用しようとする記述が見られ、有意義な振り返りとなったことが示唆された。また、教育実習に関する不安や疑問についての記述も見られたが、話し合いを通じて新たな視点を得たことは、学生の安心感を高めるとともに、困難を乗り越えようとする意欲を喚起する一助となったと推察される。
- 希望者による相談会については、昨年度より相談者が増え充実した時間となった。長時間の相談になった会場もあったが、相談する学生にとってはとても重要な場であると考えられる。

##### (第一部 道徳科の授業の講義)



##### ○問3の回答の理由

(「実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起する」に関する記述の抜粋)

- \* 子どもが自分の意見、考えをもち交流した後にまた子どもが自分の考えを再構築するというサイクルが答えが一つではない道徳だからこそ、必要なことだと感じた。
- \* 道徳では教師が評価をする側ではなく、子供たちと同じ目線に立って教師自身も学ぶこ

とがあるんだと実感した。授業の考え方が変わった。

- \* 道徳の授業についてはかなり知識不足だったため深い所まで話を聞けるようになった。
- \* 漠然としていて、模範的な答えに辿り着ければ良いと思っていた道徳について理解が深まったから。
- \* 道徳の授業について、新たな発見があったから。特に教員が答えを用意するのではなく、バリエーション豊かな問いかけを用意することが大切だと思った。
- \* 道徳は何を教えればいいのか、どう教えればいいのかわからなくて身構えていたけれど大切なのは児童生徒が自分ごととして考え、他者の考えを受け入れて、また自分の考えに活かせるようになることなのだとしれたから。
- \* 道徳の授業での問いかけの工夫を学ぶことができたから。どうしても固定の価値観を押しつけてしまいそうだけどそれは良くないことがわかったので意識が変わった。
- \* 道徳の授業について考えることができたため。教育実習で道徳は絶対にやる教科だが、どう取り扱うべきか、何をしたら良いのか全くイメージが持てていなかった。話を聞いて、凝り固まった考えが溶かされた。
- \* これまで漠然と捉えていた、道徳についての理解が深まった。これまで自分が受けてきた、「ただ思ったことを発言して終わり」の授業ではなく、議論して再構築する授業について知れたから。
- \* 道徳は先生が答えてほしい回答ではない回答を拾ってなぜそう考えたのかをみんなに共有することで深い学びにつながることを学んだから。
- \* 道徳の授業において、答えを作らずにそれぞれの考えを尊重するということは知っていたが、どうして答えを作らないことが大切なのか、そのためにはどうしたら良いのかをより具体的に指導して下さったから。また、自分の経験談を用いてより私たち伝わりやすく講義をして下さったから。
- \* 道徳の授業は教師の問い次第で子どもの考える力を伸ばすことにも繋がるし意見の視野を広げることができると気付けたから。学校の先生がいる意味を改めて考えることができたから。また、子どもの答えを聞くのが楽しみな問いを立てるという言葉が印象的だったから。
- \* 道徳の授業は正直何をしたら良いかわからなかったけれど、教師がこれを教えたいということが見えやすくなるように、あくまでも子どもが考えることが正解だと思うので、子ども主体的な授業をつくるために色々なことを学べたため。
- \* 道徳の授業は、教師になる中で必ず行なっていかなければならない教科だが、実際にどんなことを教えればいいのか、考えさせればいいのかは全く知らなかった。しかし、今回の講義を聞いて、子どもたちに道徳の授業を通して、どういうふうになって欲しいのかを自分なりに考えさせられた。とても楽しい講義だった。
- \* 子どもに考えさせるということが深い学びにつながるということがわかった。その上で教師として考えさせることができるような問いかけや関わり方を身につけていきたいと

考えた。さまざまな問いかけを身につけていきたい。

(第2部 学校教育の課題に対する講義)



○問5の回答の理由

(「実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起する」に関する記述の抜粋)

- \*失敗談を自分の経験値として私たちに共有してくれて、校長先生や教頭先生をやられた方でも失敗は誰にでもあるんだと聞けたので、失敗を前向きに捉えることができる気がした。
- \*自分のやってきたことが肯定されたと同時にもっと頑張ろうとも思えた
- \*観察の大切さや指示、命令ではない考えさせる問いかけが子どもの成長に繋がることが分かった。教職の良さにも改めて気づけた。
- \*教師は生徒のことを観察して理解しようとするしようとする態度の重要性を学んだ。個人によって能力を引き出すためには伝え方を変える必要があり、多くの失敗を通して学んでいかなければならないと感じた。問いかけ方にも工夫が必要であることを実感した。
- \*教職の専門性は、そこまで深く考えたことがなかったため、グループで話し合うことで自分の考えを深めることができた。
- \*教材研究ばかりに終始していたが、観察の重要性を確認できたから。
- \*来年度の実習だけでなく教員として採用された後にも使えるテクニックや意識しておくべき点について分かりやすく解説してくださったから。
- \*子供たちがなにか悪いことや過ちをしてしまった時ただ怒るのではなく、考えさせるような問いかけや声掛けをすることの大切さをすごく感じた。
- \*教師の難しさを教えると同時に、楽しさや、元気をもらういい職業であることを教えてもらったから。
- \*実体験をたくさん挟んでくれたので、想像しやすかった。子供が考える問いづくりができる教員になりたい。
- \*いじめへの対応も小さな変化への気づきも普段の細かいコミュニケーションを取ること

によって気づくことができると考えた。その時に頑張ることはもちろんだけど普段からの関わりが大切だと考える。

- \* 実際の失敗談を聞くことができたから。子どもをしっかり見ることは一番大切だが、一番難しい。難しいからこそ逃げてしまいがちである。しかし教員をやる上でそのことから絶対に逃げてはいけないこと、全力で向き合っていかなければならない事を話を聞く中で改めて強く考えた。
- \* 教員は専門的に学問を子供に教える仕事である一方で、教えるだけではなく1番学校生活を送っている子供のことを分かっている理解者という立場であるという考え方が身についたため。
- \* 現在の教育の現場で問題視されてること、解決しなくてはいけない課題などがわかりやすく挙げられていて、教育というものの理想論だけでなく、現実的な問題を現場に即して教えていただいた。わかりやすく、やってはいけないことがよくわかった。
- \* 渡井先生の実体験をもとに、教えることだけでなく、子どもたちに気づかせることの大切さを学んだ。指示待ち人間ではなく、自分で考えさせられる人間になりたいと思った。また、「見取り」の大切さについて理解することができた。
- \* 教員の仕事は教えることがメインと無意識のうちに考えてしまいそうなことだが、本人に考えさせることが大切ということ再認識させてもらうことができたから。

#### ○リフレクションで印象に残っていること

(「実習前の不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起する」に関する記述の抜粋)

- \* 自分の意見でも、話し合いの中でも「問い」が話題になった。子どもたちが考えられる問いにするためには、教師の力量も含めて主導しなければならないところなのか考えさせるところなのか見極めて授業を進めていかなければならないと感じた。
- \* 教師の専門性が何かに関しての話が残っている。授業力や免許があるからだと思っていたが、生徒理解をすることの必要性も学んだ。
- \* 観察することの難しさと大切さ。観察してもそれが合ってるか確証は無いし、それで子どもの関係が悪くしまう可能性もあるため、人間観察で日頃から経験を積むことが大切だと感じた。
- \* 全員が教員という職業にポジティブだということ。不安などはあったとしても、全員が肯定的であることが印象に残った。
- \* 教育は全てが子どもの笑顔のためであるということである。子ども主体に教育を考えることが、子どもにとって一番の学習になると感じたため。
- \* 問いかけの大切さだ。問いかけをする際に指示になってしまうのではなく、どう子どもたちに自分で考えて行動できるかについて先生になったら大切にしないといけないと感じたこと。
- \* 班の人たち全員が考えさせる、気づかせるということに注目していた。自分もそうであっ

たが、ただ教えるだけの指導ではなく、考えさせることを意識して指導をしていきたいと思った。

- \* 児童生徒をしっかり観察し、褒めるということが大事であるということ。
- \* 班の多くの人が子供達を 1 番知っているから先生であり、そのためには生徒を観察して交流する必要がある点に注目していた。
- \* それぞれ着目した点は違ったが、教員という仕事は大変で責任が大きい、やりがいがあることを共有できた。
- \* こどもの観察が重要であることは認識していてもそれが行動に起こせない、もしくは子どもにその熱意が伝わってないことも十分にありえる事だから指導技術と合わせて子どもとの関わり方についても考える時間をたくさん作っていきたいという心構えが印象に残った
- \* みんな教育実習が迫る中で不安があったり自分にできるかわからないという意見を持っていたが、今日の話聞いて失敗することを恐れずに、そこからどうするか、何を学ぶかを考えることが大切だという考えが多くあり、私自身もそう考えた。
- \* 将来教職の道を進むにあたって、心配や不安を抱えている人もいたが、今回の講習でそのような人たちに活路が見いだされたと思う。
- \* 教員でも失敗はするが、それでもその失敗を踏まえて成長できること。
- \* 児童、生徒理解を大切にしたいと感じました。日頃からの丁寧な関わりと観察が子どもたちの深い学びにつながると感じました。
- \* 教材作りや教材開発に目が行きがちだが、子どもたちが真剣に取り組んでいる活動をしっかり観察し、それを認めてあげることが他の授業や、その子自身を良い方向に向かわせることにもつながるのではないかと思った。
- \* 教師は子どものせいにしがちであるが教師の問いかけ、対応が子どもへ大きな影響を与えているとわかった。自分の行動を見直すことをしていきたいと思った。

## (2) 課題

○今年度も対面形式で計画・運営を行った。対面は講師の熱意が伝わりやすく、受講生のコミュニケーションも活発になるため、今後も継続が望ましい形式である。会場についても、昨年度同様に会議室を使用したことで、グループ討議やリフレクションが円滑に進行した。特に、第1部の講師によるアイスブレイクの効果があり、ランダムなグルーピングであっても質問や相談がしやすい土壌が整い、スムーズな話し合いが可能となった。一方で、「もっと話し合いをしたかった。」という意見が見られた。このことは学生の意欲の高さを示している。今後も、学生同士の意見交流の場を確保した講義構成やリフレクションの機会を設けることで、学生が主体的に学びを深めていくことが期待される。

## 「教員就職直前講座」報告

新たに教員となる4年次生や大学院生を主な対象とし、就職前の不安や疑問を取り除き、学級経営など業務の見通しや、初任者としての心構えをもてるよう、若手教員の講話や、学校でのICT活用に関するワークショップ、客員教授をお迎えしての懇談からなる講座を開催した。参加者のニーズにあった講座となった。

- 1 実施時期 令和8年2月16日（月）15:00～17:00
- 2 開催場所 LC17（全体会） LC12（小学校部会） LC16（中学校・高等学校部会）
- 3 次第
  - (1) はじめの言葉（全体会場LC17）
  - (2) 附属教育実践総合センター長挨拶
  - (3) ICT活用についてのワークショップ  
講師 山梨大学 教育実践総合センター 三井一希先生  
～休憩・分科会場へ移動～
  - (4) 現職教員（本学卒業生）による講座  
講師 甲府市立上条中学校 武田 美結先生  
忍野村立忍野小学校 関戸 宏樹先生
  - (5) 何でも質問コーナー（講師・客員教授との懇談）
  - (6) おわりの言葉
- 4 参加者数14名（小学校6名 中学校8名）  
※学部4年生10名、教職大学院生3名、科目履修生1名
- 5 事後アンケートの結果（回答数9）
  - (1) 周知方法
    - ・大学の先生から…4
    - ・ポスター…3
    - ・CNS…2
  - (2) 実施時期
    - ・適切…8
    - ・少し早い方がよい…1
  - (3) 講座内容（意見・感想）
    - ・より具体的に一年目の見通しをもてる講座になった。ICTを自分で使ってみることもできたことは良い経験となった。
    - ・実際に先生の体験談を聞くことができ、より細かく想像することができた。
    - ・来年から実践できそうなことが学べた。
    - ・とても充実した内容でした。4月から頑張ります！

- ・前半では、実際に教育現場でそのまま使うことができるような ICT の活用方法を知ることができて、4 月からの不安感を少し軽減することができた。後半では、関戸先生のお話を聞いて、「推し」(目標)を作ることが大切だと感じた。
- ・三井先生の講座を拝聴して、ICT を授業で活用していく決意ができました。また、私は学級経営に不安を強く感じていたのですが先生方から具体的なアドバイスをいただき、自分の中でプランを作ることができました。不安が少し薄まったように思います。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- ・ICT の活用を実際に自分が体験しながら学べたことが良かったです。知らないツールもあり、使ってみたいと思うものばかりでした。当たり前にあるものとして使えるように、まずは自分が使ってみたいと思います。まだまだ学び足りないことがあると思うので、4 月までの期間に本を読んだり ICT を使ってみたり、自分の力をためる力としたいと思います。参加できて良かったと思いました。ありがとうございました。
- ・実際に教員になったらどのようなことが考えられるのか、実際にどのようなツールがどのような場面で使えるのかについて、自分自身での体験を通して学ぶことができて良かった。
- ・ICT を先生自身が使いこなすことの大切さを感じました。しっかりと勉強して習得したいです。健康に留意して、早寝早起きを心がけていきます。

アンケート結果を見ると講座は好評であった。講師の先生方・客員の先生方をはじめとするスタッフの皆さんのおかげである。また、熱心に参加した学生にも感謝したい。



## 令和 7 年度第 2 回 不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会報告

山梨大学教育学部附属教育実践総合センターでは、山梨県教育委員会と連携し、「不登校支援の多様性を考える」をテーマに実施し、その後保護者同士の活発な意見交換を行いました。

具体的にお子さんへの対応やお子さんへの声掛けのポイントや不登校のお子さんの心のエネルギーの状態を推察するために用いられている心のエネルギー曲線についてお伝えしワークを通してお子さんのエネルギー状態を推察しました。意見交換では、お子さんの年齢が近い保護者の方を同じグループとして情報交換を行っていただきました。各ご家庭で取り入れている有効な支援に関する情報や家での過ごし方等について活発な情報交換が行われ、県教委の先生にも具体的なお助言をいただきました。

### 1. 実施日

令和 8 年 3 月 2 日（月） 10:30～12:30（受付 10:00～）

### 2. 参加者

9 名

### 3. 場所

山梨大学甲府キャンパス L 号館 C 棟（LC-15 教室）

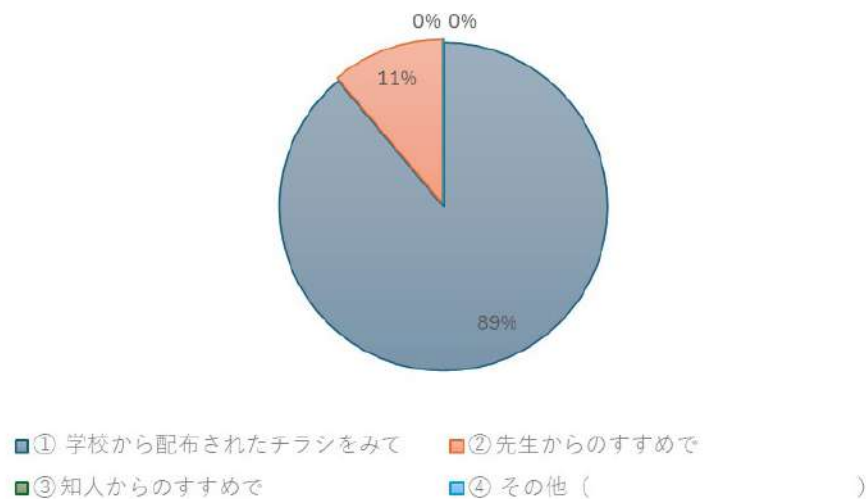
### 4. 情報提供

- ・ 山梨県教育支援センター・フリースクール HP 紹介（山梨県教育委員会より）
- ・ 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター 教育相談室 紹介リーフレット

## ■ 不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会アンケート結果

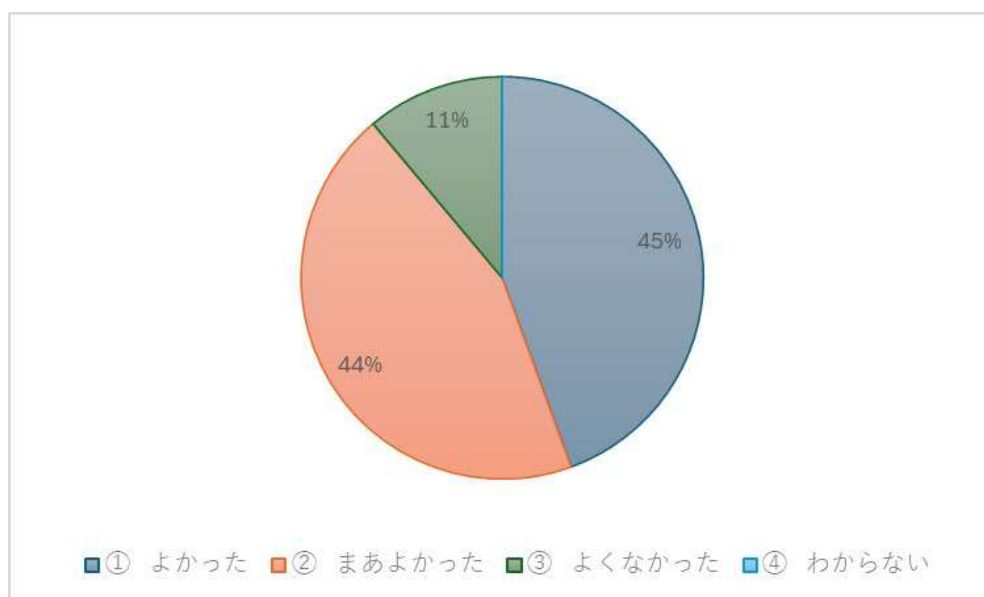
### 問1 本会の開催をどのようにお知りになりましたか

- ① 学校から配布されたチラシをみて
- ② 先生からのすすめで
- ③ 知人からのすすめで
- ④ その他

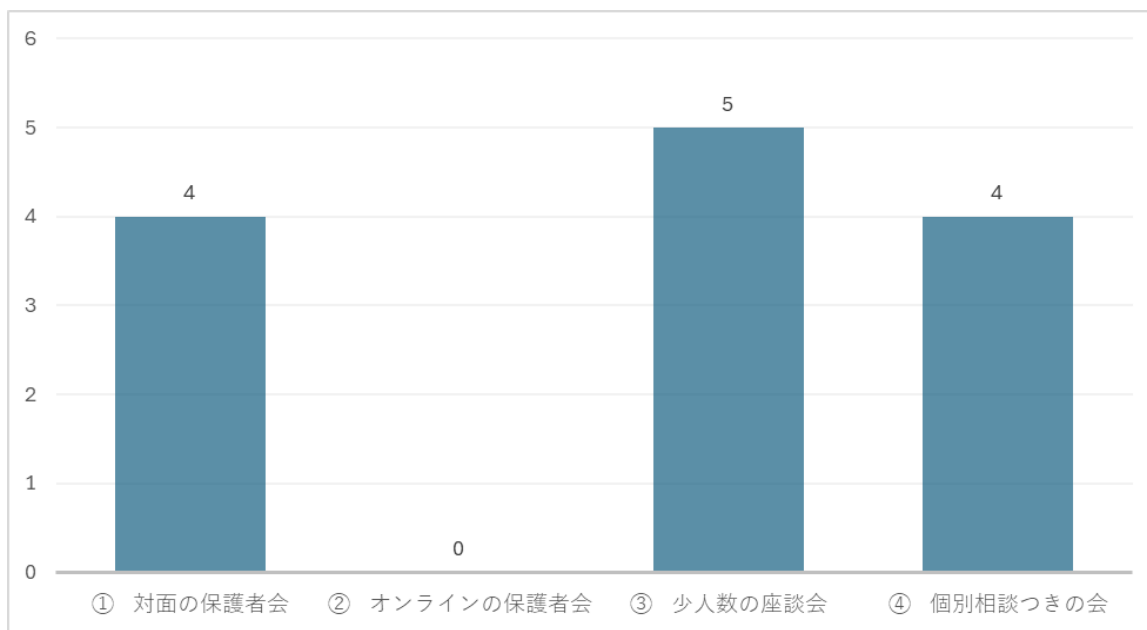


### 問2 本会に参加していかがでしたか

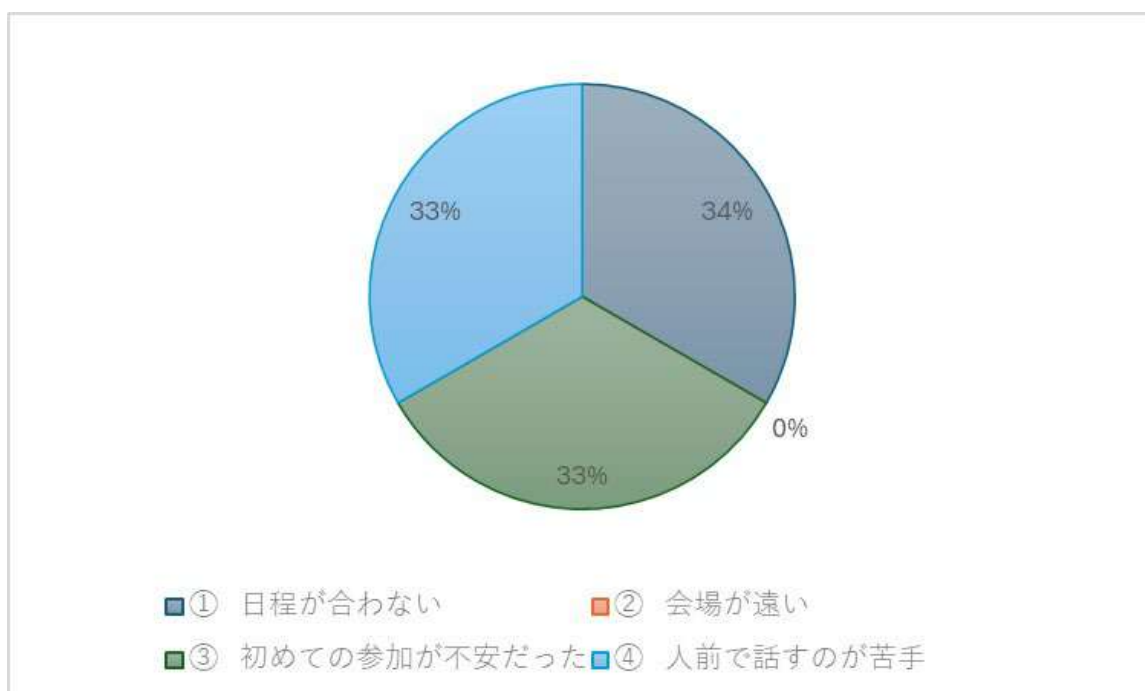
- ① よかった
- ② まあよかった
- ③ よくなかった
- ④ わからない



問3 今後参加しやすくなる保護者会の形式があれば教えてください。あてはまるものに○をつけてください(複数回答可)。



問4 保護者会に参加しづらい理由があれば教えてください。(複数回答可)



問 5 不登校に関する情報として、どのようなテーマに関心がありますか？(複数可)

<input type="checkbox"/> 学校とのやり取りの仕方（出席扱い、連携、配慮など）	14%
<input type="checkbox"/> 子どものメンタルヘルス（不安、抑うつ、昼夜逆転など）	14%
<input type="checkbox"/> 不登校経験者の話や体験談	14%
<input type="checkbox"/> 学習支援（家庭学習の工夫、外部サービスなど）	12%
<input type="checkbox"/> 子どもの自己肯定感の育て方	12%
<input type="checkbox"/> 保護者自身のメンタルヘルス	12%
<input type="checkbox"/> 医療機関や相談機関の利用（心療内科、支援センター等）	9%
<input type="checkbox"/> 家庭でできる関わり方・声かけ	9%
<input type="checkbox"/> 進路・高校受験・将来について	5%

問6 現在、最も知りたい・困っているテーマはどれですか(複数可)

<input type="checkbox"/> 家庭での関わり方	23%
<input type="checkbox"/> 子どもの気持ちの理解	18%
<input type="checkbox"/> 学校との関係づくり	18%
<input type="checkbox"/> 学習・進路	14%
<input type="checkbox"/> 医療・支援機関の利用	14%
<input type="checkbox"/> 保護者自身のストレスや不安	14%
<input type="checkbox"/> その他（ ）	0%

問 7 不登校に関する情報会の開催時間として参加しやすいのはいつですか？(複数可)

<input type="checkbox"/> 平日午後	31%
<input type="checkbox"/> 土曜午前	31%
<input type="checkbox"/> 平日午前	25%
<input type="checkbox"/> 土曜午後	13%

## 問 8 本日の情報交換会のご感想をご記入ください。

- 子どもの悩みを話す場がないので、今回参加させていただいてよかったです。
- ストレスのはけ口がなく、家族関係が心配だったので主人と共有しようと思います。
- 色々な人との情報が聞けたのは参考になった
- 同じ悩み、不安を持つ保護者の方と話げできたことで自分自身も少し楽になった
- このような会があることを知りませんでした
- 初めての参加でしたが、周りの保護者の方のお話が聞けてよかったですし、自分の家庭の事を話せてスッキリした。相談窓口の案内も聞けてよかったです。
- 辛い話をみなさんしてくださり、一人で苦しんでいるわけではないと思いました。色々な事例があるので、我が家がやったことがよいかかわからないのですが、参考になればよいと思いました。一人でも苦しんでいる子どもが減るといいなと思います。
- 同じ悩みを持つ保護者の方と情報交換できて少し安心しましたし、参考になったこともありました。
- 皆さん当事者なので悩まれているのだな、私だけではないんだなと思いました。現在、子どもは留守番 NG なので子連れで参加できるとありがたいです。
- 他の不登校の保護者と話げできてよかった。
- もう少し詳しい話が聞きたかったです。

## 今後の課題と次回に向けて

令和 7 年度第 2 回「不登校の子どもを支える保護者の会」では、不登校の子どもの状態について理解を深めるための情報をお伝えするとともに、保護者の方同士で自由に思いを共有していただく情報交換会を行いました。日々、お子さまの不登校に向き合っておられる保護者の皆さまにとって、今回の会が少しでも支えや気づきとなっていければ幸いです。近年は参加者がやや少なかったことから、次回の開催に向けて改善を図る目的でアンケートを実施し、実施日時の希望や関心のある内容、開催形態などについて伺いました。その結果、少人数での対面実施を希望する声が多く寄せられ、オンライン開催を希望する回答はありませんでした。会場に来られた保護者の方々は、実際に顔を合わせて話す場に魅力や安心感を感じておられたのではないかと考えられます。また、情報交換会に加えて個別相談の実施を望む声が比較的多く見られ、個々の状況に即した個別相談を求めるニーズが高いことも示されました。

関心のあるテーマについては、学習面や進路といった内容よりも、家庭での関わり方や日々の過ごし方、学校とのやり取りの仕方に対する関心が特に高いことが明らかになりました。保護者の皆さまが日常の中で直面している迷いや戸惑いに応える内容が求められていることがうかがわれます。今回いただいたご意見は、今後の開催内容の検討において大切に反映していきたいと思ひます。ご参加いただきました保護者の皆さま、そして児童生徒の皆さまに心より感謝申し上げます。

# ICT 支援学生ボランティアの研修と派遣（2025 年度後期 総括）

やまなし情報教育推進室

## 1. はじめに

2025 年度後期も、ICT 支援学生ボランティアは、附属小学校・附属中学校での授業支援を通して、学生が教育現場での学びを体験的に積み重ねる取り組みとして進めてきた。現場での関わりを一度きりの経験で終わらせず、活動後に研修の場を設け、気づきを言語化して次の支援につなげていく往還の形を大切にしている。

本資料は、後期の活動記録・研修記録から見えてきた点を整理し、年度としての成果と課題、来年度以降に向けた方向性をまとめるものである。

## 2. ICT 支援学生研修と派遣

### 【概要】

後期は学生 4 名（2 年生 2 名、3 年生 2 名）が参加し、授業場面での見守りや必要時の支援を行った。支援は「授業の流れを止めない」ことを基本とし、児童生徒が自分で学習を進められるように、必要なところでそっと支える関わりを中心としている。

### 【研修（活動の振り返り）】

研修は、活動で印象に残った場面や困った場面を持ち寄り、皆で整理し直す「振り返り研修」と位置づけている。後期の振り返り研修は計 7 回の実施・予定である（10/20、10/28、11/5、1/12、1/21、2/18 実施、3/18 最終回予定）。

研修記録からは、学生が現場を丁寧に見取りながら、次の関わりへつなげようとしている様子がうかがえる。ある学生は、この取り組みについて「ICT を教育現場ではどのように活用しているかを見て学び、研修で他の学生との話し合いから疑問点や活用の様子などを整理する」ことに意義があると述べている。また、現場での迷いを抱えた経験も共有されており、例えば、ICT の使い方が不適切に見える児童への声かけに悩んだ後、研修で「指示的な表現ではなく、児童の気持ちに寄り添うような声かけ」を提案されたことが学びとして記されている。別の学生も、検索の仕方に迷う児童への関わりについて、まず意図を聞き取り、活動を認めた上で別の調べ方を提案する、といった寄り添い型の関わりを学んだと振り返っている。研修が、個々の経験を「次に生きる形」へ整える時間になっていることが伝わってくる。

### 【派遣】

派遣では、教科や学年に応じて支援場面が多様である。協働編集、資料配布、調べ学習、表現活動、実験や制作活動など、場面ごとに求められる支援は異なる。ただし、ICT を使う場面だけでなく、ICT の使用が中心ではない授業場面（理科実験や体育など）でも、学習が進むように見守りや声かけを行うことの大切さが記録から読み取れる。

### 3. 活動の様子と学生の学び（活動記録より）

#### (1) 調べ学習の支援：検索の工夫と、問いの立て直し

調べ学習では、児童生徒が自分なりに検索を試みる一方で、「調べても出てこない」と行き詰まる場面があった。ある学生は、児童からそう言われることが多く、自分も一緒に調べたが「ピンポイントで答えが分かるわけではなかったため、少し困った」と率直に振り返っている。



その上で、知りたい情報を得るために「どんな工夫をして検索をかければよいかについてもっと学びたい」と記しており、検索支援が単なる手助けではなく、問いの焦点化や情報の探し方を学ぶ教育の機会になっていることが分かる。

また、担任が「AI を使用してもいいが根拠をしっかりと示すこと、自分の言葉にして書くこと」と明確に指示していた点に触れ、学生は「AI の使用の仕方についての指示も明確に行うことが大切だ」と述べている。生成 AI が身近になった状況では、根拠の確認や言い換え、まとめ方を授業の中で丁寧に扱う重要性が、現場の記録として示されている。

#### (2) 協働編集・表現活動：キャンバの良さと、共有のつまずき

国語や学活では、キャンバを用いて本文の気づきを付箋で共有したり、掲示物を共同で作成したりする活動が見られた。ある学生は、付箋が画面上に並ぶことで「いいなと思っているところが人それぞれ違うということが一目でわかるため、理解しやすい」と述べている。児童が互いの見方の違いに気づき、学びを深めていく過程を支える道具として ICT が働いている様子が伝わってくる。

一方で、共有された部屋に入れて編集できているにもかかわらず、編集内容が他の児童に共有されないという困りごととも報告されている。学生は「どのようにしたらよいか分からなかった」と正直に書いており、こうしたつまずきを振り返り研修で扱い、次の場面での確認や支援につなげていくことが大切である。

#### (3) ICT 活用の多様さ：選べる学び方と、学びの深まり

授業の中では、児童がデジタル教科書と紙の教科書を使い分けるなど、自分で学習方法を選択している様子も記録されている。学生は「児童が自分で学習方法を選択していた」ことに触れ、一人一台端末の環境が、学び方の選択肢を広げる方向でも活用されていることを学んでいる。

また、高学年では、ICT を使いこなしながら班での話し合いが活発に行われていたという記録もある。成果物を見て「AI っぽい」といった観点が出る場面もあり、学生は「ICT を用いた学習の中で AI を児童も意識していることを実感した」と述べている。子ども自身が、表現の受け手や印象まで含めて考え始めていることがうかがえる。

#### (4) ICTの使用が中心ではない授業場面：授業支援と関係づくり

理科実験や体育など、ICTの使用が中心ではない授業場面にも、多くの学びがある。手順が多い実験では、担任が注意点を押さえつつ、主に児童同士で考え、協力しながら取り組む時間を大切にしていた。学生は、児童同士のつながりが大切にされている点を「とても素敵な授業である」と表現し、指導と協働のバランスを考える重要性に触れている。

体育では、学生自身が活動に参加し、児童が楽しそうに関わる様子が記録されている。活動後に児童が積極的に話しかけてくれるようになり、以前より良好な関係を築けたと感じたという振り返りもあった。支援が、学習活動の支援にとどまらず、関係づくりの一步にもなりうることが分かる。

#### 4. 研修で共有された工夫（振り返り研修より）

振り返り研修では、現場で起こった出来事を、次に同じ場面に出会ったときの具体的な関わりとして整理している。検索支援については、まず児童の意図を聞き、取り組みを認めた上で、別の検索語の立て方を提案する、といった寄り添い型の声かけが共有されている。ICTの使い方が不適切に見える場合も、注意で終わらせるのではなく、児童の気持ちに寄り添いながら学習の目的に戻す関わりを意識することが話題となっている。

#### 5. 来年度以降に向けて

ICT支援学生ボランティアは、附属学校の学習活動を支えるだけでなく、学生が学校現場でのICT活用を自分で考え、検討できる人材へと育てていく機会にもなっている。本来は、来年度以降も本活動を継続し、学生が学びを深められる機会を確保したいと考えている。

一方で、参加学生からは「他の学校にも行ってみたい」という前向きな声も聞かれている。附属学校での学びを大切にしつつ、学生の視野が広がっていく意欲もまた、教員養成にとって貴重である。継続を基本に据えながら、学生の希望や成長段階に応じて、学びの機会をどう組み合わせるかを検討していきたい。

#### 6. 2025年度後期のまとめ

後期の記録からは、学生が操作支援にとどまらず、授業の目的や学習の進め方に目を向けながら関わろうとしていたことが伝わってくる。検索や生成AI、共有のつまずき、ICTの使用が中心ではない授業場面での支援など、現場のリアリティに触れながら、振り返り研修で経験を言語化し、次の関わりへつなげていく流れが育ってきた。学生が生き生きと活動に取り組み、学びを深める機会として、今年度も意義の大きい取り組みであった。



## 科学の甲子園山梨県大会 県代表チーム支援講座（情報分野）実施報告

### 実施概要

本講座は、「科学の甲子園」山梨県大会の県代表チームメンバーを対象とした情報分野の支援講座として実施したものである。実施日は2026年1月31日（土）であり、山梨大学 甲府キャンパス 教育学部 J号館 422 教室にて、午前（09:30-12:30）と午後（13:30-16:30）の2枠で実施した。対象は県立吉田高校 理数科の生徒8名である。受講者はBYOD 端末を持参し、ブラウザ上で演習を行う構成とした。



講師は山梨大学 教育学部附属教育実践総合センター 准教授 稲垣俊介が担当した。県側の調整窓口は山梨県教育庁高校教育課主幹指導主事の川口泰才先生であり、実施要項の整備、参加生徒への周知、当日の運営調整に加え、当日は引率としても対応していただいた。

### ねらい

本講座のねらいは、Python を用いた演習を通して、機械学習の基本的な考え方に触れ、データを扱う上での見方や判断の基礎を形成することである。生成 AI の流行により、社会が「AI を使う」ことを前提に動き始めている一方、使うだけでは限界がある。そこで、生成 AI を下支えする技術としての機械学習を、プログラミングを通して体験させる講座として設計した。単に便利な道具として AI を「使う」側にとどまらず、仕組みを理解し、限界を見極め、必要に応じて作り直せる「作る」側、社会を作る側の視点を持つことを重視した。

導入では「30歳のわたし」を仮想設定として置き、10 数年後の自分がどのような仕事をし、どのような責任のある判断をしているのかを言語化させた。単に技術を知っているかどうかではなく、社会の仕組みを理解し、必要に応じて作り替え、運用の基準を決める側に立っているかどうか、将来の可能性を左右するという観点を共有した。その導入に続けて、生成 AI が急速に普及しているが、その根底には「データから規則性を学習し、予測や分類を行う」という機械学習の考え方があることを示し、本講座では Python の演習を通して、その基本的な発想を体験することを目的とした。ここで強調したのは、生成 AI を便利に使うこと自体は多くの者ができることであるが、さらに一歩進み、AI の仕組みを理解し、限界を踏まえて判断できる力を身に付けること、そして将来は使う側ではなく作る側、社会を作る側になってほしいという点である。

### 実施内容（概要）

全体としては、Python を用いて機械学習の基礎に触れる構成である。最初に Python の基本的な書き方を確認した上で、データの見方と扱い方を手を動かしながら学ぶ流れとした。

続いて、身近な題材を用いて、データの表現や簡単な処理の考え方を体験させた。その上で、データを分類する、まとめるといった機械学習の基本的な発想に触れ、結果の見方（うまくいっている点／難しい点）を整理する活動へつなげた。

ここで強調したのは、結果が「それらしく見える」とことと、信頼して使えることは別である、という点である。扱う技術の細部よりも、仕組みを理解し、判断の根拠を持つことを中心に据えた。講師の稲垣は、演習の節目ごとに「どこを見て判断するのか」を確認し、ブラックボックスとして使わない姿勢を一貫して求めた。

### 参加生徒の様子

本講座は高校生にとって相当高度な内容を含んでいたが、生徒は全体として熱心に取り組んでいた。プログラミング経験が少ない生徒もいたが、途中で手が止まっても投げ出すことなく、提示された考え方を手掛かりに理解しようと粘り強く取り組んでいた。特に、うまくいかない場面で原因を考え、やり方を変えて再度試すといった姿勢が見られた点は重要である。

講義で示した「使う側ではなく、作る側、社会を作る側になってほしい」というメッセージについても、単なる言葉としてではなく、演習中の判断や振り返りと結び付けて受け止められるよう、随所で確認した。

### 運営上の工夫と留意点

演習はブラウザ中心で完結する形とし、持参端末で実施できるよう設計した。事前準備として Google アカウントの用意とログイン確認を求め、当日は立ち上げ確認から開始した。高度な内容を短時間で扱うため、全体としては、(1)到達点を明確に示す、(2)途中結果を可視化して確認する、(3)躓きが多い点は全体で止めて共有する、という方針で進行した。

また、本講座が円滑に実施できた背景には、県側窓口による事前の要項整備、参加生徒への周知、当日の運営調整と引率を含む支援があった。



### まとめ

本講座は、Python を用いた機械学習の基礎的体験を中心として、データを扱う上での考え方と判断の基礎を学ぶ機会として実施したものである。参加生徒は非常に熱心であり、経験差がある中でも全体として学習活動が成立した。今後も同様の機会を設ける場合には、演習中心の構成を維持しつつ、「学ぶ必要性」と「作る側の視点」を導入で明確に打ち出すことが有効である。

# 先進校授業視察報告 愛知県立旭丘高等学校「課題研究（情報β）」プログラミング

## 1 視察日・授業単元

- ・2026年1月29日（木）
- ・課題研究（情報β） 単元「プログラミング」
- ・第3限 10:30-11:20（2年5組）、第4限 11:30-12:20（2年7組）

## 2 視察先・授業者

愛知県立旭丘高等学校・井手広康先生

## 3 視察者

萩原佳子先生、笠井さゆり先生、稲垣俊介（取りまとめ・本文執筆）

## 4 目的

教員養成および現職教員研修の高度化に資するため、先進的な高等学校情報科教育の実践を観察し、授業設計・学習環境・評価の具体を把握する。特に、探究的な学習とプログラミングを結び付けた実践としての成立条件を整理する。加えて、生成AI活用を「是非」ではなく「どのように使わせ、学びとして成立させ、どのように評価するか」という授業設計・評価設計の論点として抽出し、小中高接続の観点から段階化の課題を明確化する。

## 5 視察内容

### (1) 授業設計と学習活動

当該単元は、プログラミングを単独の技能習得として閉じず、課題研究の文脈で「制作」「説明」「改善」「発表」を往還させる設計であった。視察時点は単元終盤に位置付き、学習者が作成物を説明し、改善可能性を語ることに重心が置かれていた。発表は4人グループを基本とし、聞き手が必ずコメント・質問する運用が明確に要請されており、相互改善の場として構成されていた。



### (2) 生成AI活用の位置付け

生成AIは「問題解決の手段の1つ」として位置付けられ、活用経験を通して「使いながら学びを成立させる」ことが意図されていた。重要なのは、導入の有無ではなく、1問1答の利用と、対話・手直し・検証を伴う利用の差が学びの深さに直結する点であり、授業はその転換を前提に設計されていた。



### (3) 評価設計

生成AI活用を前提に、学習者が「使い方」を可視化・言語化する提出物様式が整備されていた。具体的には、プログラム中の該当箇所を区分し（生成AI出力のまま／修正して利用／生成AIを用いず作成）、割合を見積もって合計100%となるよう記述させる手続きが設けられていた。加えて、工夫点や改善の見通しを文章で記述させ、コードと記述の両面から理解・説明可能性・手直しの痕跡・改善志向を見取る評価が意図されていた。これは真正性を「0から自力で書いたか」ではなく、「仕様化・検証・改善・説明の循環を回せているか」という観点で再構成する試みと捉えられる。





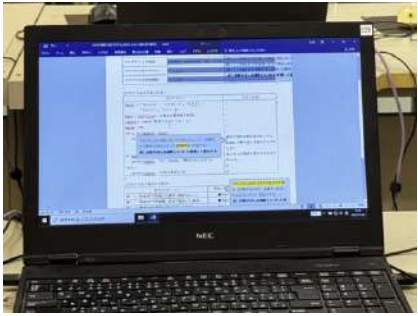
## 6 所感・考察

### (1) 真正性の焦点は「説明可能性」へ移る

生成 AI 環境では、自力記述のみを尺度とする真正性は成立しにくい。むしろ、出力を読み、誤りを見抜き、修正し、目的に即して再設計できるか、そして自分の言葉で説明できるかが本質となる。本視察の提出物設計は、その見取りを実装した点で示唆的であった。

### (2) 教員の力量形成と小中高接続が次の課題

生成 AI 活用の授業設計・評価設計を成立させるには、教員側の理解と運用能力が前提となる。ここでの「使いこなす」とはプロンプト技能に還元されず、課題の構造化、仕様の明確化、検証観点の設定、依存を抑える仕掛け等を授業として設計・運用できることを指す。また、生成 AI は高校段階で突然扱う対象ではなく、発達段階に応じて段階的に位置付ける必要がある。小中高で生成 AI の扱いをどう段階化し、学びの連続性として設計するかが重要な検討課題である。加えて、高校の情報科の指導は中学校段階の履修実態（技術科における学習内容を含む）を把握した上で設計する必要がある。中学校で「何を、どの程度経験してきたか」を前提条件として整理し、その上に高校の履修方法と到達目標の見通しを置くことが、学習の断絶を避けるうえで重要である。さらに、小中学校段階の「情報基礎」に相当する学習を学年別に具体化し、実施状況を継続的に把握する仕組み（校内・自治体単位での点検等）を整える必要がある。目標設定だけでなく、現場の実装状況をデータとして確認し、支援（研修・教材・時間割上の確保）に反映させることが不可欠である。



## 7 今後の活用

- (1) 教員養成：生成 AI とプログラミングを「仕様化・検証・改善・説明」の学習プロセスとして位置付け、提出物設計と評価観点を含む演習を整備する。
- (2) 現職研修：生成 AI 利用を前提とした評価の観点（説明可能性、手直し、検証の痕跡）を事例化し、授業者判断（いつ、何のために、どの範囲で使ってよいか）を支える基本的枠組みを共有する。
- (3) 小中高接続：中学校段階（技術科等）での履修内容・実施状況を把握し、学年別のカリキュラムマップとして可視化した上で、高校段階の履修方法・到達目標・評価を接続させる。併せて、実施状況の点検と支援（研修・教材・体制）を循環させる運用を検討する。
- (4) 継続：得られた知見を本学の授業・研修で試行し、改善結果を整理した上で先進校と相互にフィードバックできる関係構築を検討する。

## 8 謝辞

本視察の機会をご提供くださった愛知県立旭丘高等学校の皆様、とりわけ授業を担当された井手広康先生に深く感謝申し上げます。また、同行し多角的な視点から示唆をくださった萩原佳子先生、笠井さゆり先生に御礼申し上げます。

## やまなし情報教育推進室 先進校視察報告書

1 視察日 2026年2月26日

2 視察先 宮城教育大学附属小学校

3 訪問者 渡邊昭二郎、笠井さゆり、樋川裕幸、三井一希

### 4 目的

- (1) ICTを活用した学習に先進的に取り組む学校を視察することで、教員養成段階での情報教育の充実や情報活用能力の育成のためのヒントを得る。
- (2) 先進校と大学との連携体制の実際を視察し、本学と附属学校園、山梨県内の学校との連携体制の充実に資するヒントを得る。

### 5 内容

#### (1) 公開授業の視察

- ・1年、3年、4年、5年の「小学校情報科」の授業が公開された。(1年 プログラミングで動く絵本をつくる、3年・4年 自作のプログラミングゲームを互いにレビューする、5年 Wi-Fi がつながる仕組みを学ぶ)
- ・宮城教育大学附属小学校は文部科学省研究開発学校として、「小学校情報科」のカリキュラムづくり、教材づくりに取り組んでいる。
- ・小学校1、2年が20時間/年、3年～6年が35時間/年の時数配当で授業を行っている。
- ・どの学年も発達段階に応じた1人1台端末の活用が見られ、学習の基盤としてICT活用が位置付けられていることが確認できた。

#### (2) 意見交換会

- ・放課後に授業者と意見交換会を実施し、授業づくりのコツや日頃の授業の様子についてヒアリングをした。
- ・「小学校情報科」に全校で取り組むために、教科部会のなかに情報部を位置付け、その情報部が中心に教材を作成し、それを教員間で横展開していることがわかった。
- ・「小学校情報科」で育成したい資質・能力の検討、働かせたい見方・考え方、指導事項の整理等に重きをおいて研究を推進していることがわかった。

#### (3) 大学との連携

- ・研究開発学校としての指定を受けた3年前より、宮城教育大学の教員がカリキュラムづくりや授業デザインに積極的に関わっているとのことだった。大学と附属学校が長期間に渡って継続して協働することにより、授業改善を進めやすくなると思われる。
- ・「フューチャーラボ」と呼ばれる部屋には、3Dプリンタ、プログラミングツール、サブモニター、高性能パソコン等が設置され、児童の情報活用能力を育成しやすい環境が作られていた。これらは大学予算で整備したとのことであった。また、機器操作の支援員として、学生が日常的に小学校を訪問し、先生方をサポートする体制を構築していた。

### 6 所感

宮城教育大学附属小学校では、「小学校情報科」をつくり児童の情報活用能力の育成に向けた取組を強力に推進していた。また、「小学校情報科」で身に付けた資質・能力を各教科で発揮する場面を意図的につくっていた。次期学習指導要領では、情報活用能力の抜本的な向上が謳われている。本学教育学部においても、学校現場との連携をより一層深め、情報活用能力の育成に資する指導ができる教員を養成していく必要があると感じた。

# はじめての 生成AI

vol.02

—毎回テーマを決めて生成AIについて解説します—

## で、具体的に何ができるの？

前号（vol.01）では、生成AIの仕組みについて簡単に説明をしました。今号は「生成AIがすごいのは分かったけど、何に使えばいいの？」そんなあなたへ。

生成AIは、ただのおしゃべり相手ではありません。【書く】、【読む】、【考える】、【創る】をサポートする、万能アシスタントなんです！

### 1【書く】をサポート

面倒な下書きはおまかせ！



白紙の状態から文章を考えるのは大変ですよね。生成AIにたたき台を作ってもらい、それを人間が手直しすれば、作業時間を大幅に減らせます

例：スピーチ原稿

「卒業式の挨拶を考えて。感動的な感じで」

### 2【読む】をサポート

長い文章を要約する！



読む気が起きない長いPDFの資料や英語のニュースサイト。生成AIにコピーして渡せば、瞬時にポイントを整理してくれます

例：和訳&解説

「この英語のニュースを、小学生でも分かるように日本語で解説して」

### 3【考える】をサポート

アイデアの壁打ち相手にする！



「いい案が浮かばない…」そんな時は生成AIに相談しましょう。いつでもいくらでもアイデアを出してくれます

例：献立の相談

「冷蔵庫に豚肉とキャベツがある。今夜のレシピを3つ提案して」

### 4【創る】をサポート

画像やプログラムもOK！



文章だけでなく、画像、音声、プログラム、音楽の創作も可能です（対応している生成AIツールの場合）

例：画像の生成

「プレゼン資料の背景に使う、未来的な都市の絵を描いて」

#### まとめ

- ☑ 0から作る苦勞を生成AIが代行してくれる！
- ☑ 読んでインプットする時間を短縮し、短時間で要点を掴める！
- ☑ アイデア出しの相棒として、生成AIと壁打ちができる！



## ■ 4・5月の主な行事予定

# 4～5月の 行事予定

山梨大学教育学部の  
関係行事を含みます

### 研 修

○期間採用者等研修 ―教師力スキルアップ研修―

5月16日(土)：9:20～12:00・・・期間採用、全学年

### 教員採用試験対策講座

○時事通信出版局による模擬試験2

4月11日(土)：13:15～17:30・・・今年度教採受検者

○長野県教育委員会教採説明会

4月15日(水)：13:10～14:10・・・全学年

○二次試験対策講座1

4月21日(火)、4月23日(木)：13:20～18:00・・・今年度教採受検者

○スキルアップ講座1 ～教採合格者の動画視聴と合格ポイント解説～

4月24日(金)：16:30～18:00・・・今年度教採受検者

○山梨県公立学校教員選考検査説明会

5月7日(木)：15:00～16:00・・・今年度教採受検者

○教員採用試験願書作成指導(全体)

5月12日(火)：10:40～12:00・・・今年度教採受検者

○徽典会塾：5～7月(全6回)・・・今年度教採受検者

○スキルアップ講座2 ～全国学力・学習状況調査～

5月8日(金)：16:30～18:00・・・今年度教採受検者

○集団討議対策講座

5月14日(木)：13:20～15:50、16:00～18:30・・・今年度教採受検者

○スキルアップ講座3～生徒指導上の諸課題(いじめ・不登校等)～

5月20日(水)：16:30～18:00・・・今年度教採受検者

### 進路支援

○進路支援ガイダンス

4月1日(水)：13:00～14:30・・・4年全員、M2、M1、S1

4月2日(木)：13:00～14:00・・・3年全員

4月2日(木)：14:00～15:00・・・2年全員

○新入生合宿研修

4月24日(金)～4月25日(土)・・・1年全員

○1年生学生面談

5月13日(水)、5月20日(水)、5月27日(水)：13:00～16:00

### 教育ボランティア

○教育ボランティアスタートセミナー

4月8日(水)：13:10～14:40・・・1年、2年

○前期教育ボランティアガイダンス

4月15日(水)：14:50～16:20・・・全学年

※開催日、時刻、実施場所等は、変更する場合があります